

# 老いをゆたかに 私の提言

県保健環境部長 片木 淳さん

全国で一番の高齢県である本県。西暦二千年には六十五歳以上の高齢者が人口の二〇%近くに達する。これは全国平均を十年先に行きわたるもので、それだけに高齢社会にどう対応するかが本県の重要な課題となる。

県では県政の柱の一つに「高齢社会」を打ち出しているが、これも高齢社会に備えるもの。長寿県構想の中で、県はどのような理念のもとにどのような施策を考案しているのか。保健環境部長の片木淳さんに聞いてみた。

問題もあります。また、お年寄りに住みやすい街づくりをどうするかということも重要でしょう。保健環境部だけでなく、福祉厚生部、商工労働部、あるいは保健委員会などの部署にまたがっていく課題になります。

—その中で保健環境部は、その左右ともなる高齢者の健康を守るということが大きなテーマになりますね。

「厚生省でも、高齢者を支えることができる社会、をキックオフしたい。いくつかの方角づけをして

多いが事故や自殺があるという理由も考えられますが、県が委嘱した健康政策推進委員会の中にも申さなかった自治体職員で、今後科学的な説明が必要と指摘されています。

—その説明のために何が計画しているのですか。

「はい。まず新年度から健康対策の中に医師資格を持つ健康指導員を研修して「健康情報班」を設けます。こうした県民の健康にかかわるさまざまな情報を集めて、コトコト一ターを定めて科学的な方針を図

く、そこはくのがお年寄りにとって楽しい交流の場になる。拠点づくりです。もちろん、家庭にうちは介護の難しいケースもあるところから、中間施設の充実も必要があります。寿米は生きかたとしても、これをどうにかに受け止めていくか、これも重要な課題を挙げ止めています。

—県民に関心の深い成人健診は。

「五十八年に老人保健法が施行されてから徐々に普及していますが、社会的な普及という点、高齢者に関心を持ってもらいたい。この五月の「世界高齢デー」はぜひこのところ「健康情報班」なども予定しています。また、健康指導員では、例えば、大府かんぽも課題になりますよ。」

## 長寿県構想



「全国のモデルになる長寿県づくりに」と話す片木淳さん。(県庁)

## 県政挙げての課題に

### 科学的な裏付けも急ぐ

「まず長寿県構想が生まれたいわいから。」

「目標に近く高齢県である本県は、高齢者の割合が二十一世紀の末を目標にするの段階からスタートしたのです。人生八十年時代になり、社会の仕組みを変え、そして支えるというのが課題の要旨です。」

—それは、県政全体の取り組みが必要なのは、

「その通りです。単に高齢者の福祉や健康増進だけでなく、雇用問題や住まい、生活が充実しているか社会参加の

います。高齢者を支えることができる社会とは、例えば定年退職しても趣味なども通じて、「自己実現」を図るという社会。つまり健康を維持して生きがいの持てる社会なのですが、その基盤になるのは何となくも課題です。今後、財政的な問題も出てきますが、いかに食生活や生活環境を整えるか、なをあげたいわい。」

—本県の場合、男性の平均寿命が低いのもです。

「そうですね。女性は上から十四位と好まれますが、男性は下から三番目です。原因が

るとしています。また健康は生活と密接な関係があるところから、三三三計画と県民の生活習慣を促す予定です。」

—同時に今後待って置けない問題は、寝たきりや認知症高齢者があります。

「これからは一層高齢化も進みます。西気があることもまだきりになり生活できる。それが大切になります。その意味で、県では市町村と連携して、地域リハビリの方を大切にしています。」

—地域リハビリとは、

「特に健康増進を行うだけでなく、

ていますが、これは同時に心身ともにリハビリしてもらって健康増進の柱にもなると考えています。」

—ともあれ高齢社会は待たないです。全国に先駆けそんな社会にしていって本県は、目標で全国のモデルとあります。

「まず、そのためにもきりとした施策をしなければなりません。市町村とも連携して、本県にはから、政策をどうとびまわる社会、の環境を整えたいわい。」

—おわり

